

大黒舞 (祝福芸)

大黒様は財宝と食べ物の神で、恵比寿、毘沙門、布袋、福祿寿、寿老人、弁財天とともに七福神の一神として盛んに信仰されるようになりました。大黒様に扮して福を呼び込む舞です。



ガマ蛙は日本中に生息する両生類ですが、妖怪の仲間とも考えられています。また、心臓薬の原料である、センソという物質を分泌します。この成分を利用して作られた薬品が「がまの油」で、これを街頭で、人を集めて売りさばく芸能です。

がまの 油売り (香具師の 口上芸)

竹で編まれたすだれを、ひょうきんな口上にのせて、軽やかな拍子でリズムをとって踊りながら、さまざまな形状に変化させてゆく芸。現在ではもっとも代表的な日本の大道芸といっぴよいでしょう。

玉すだれ (放下芸)

● 浅草雑芸団——「坂野比呂志大道芸塾」の実演時の呼称。1985年、浅草奥山風景という催しに際し、坂野比呂志の指導により、大道芸を実演したのがきっかけで誕生しました。坂野比呂志(1911～1989)は「大道芸口上」の第一人者で、「芸術祭大賞」(昭和57年度)を受賞しています。また、その口上をまとめた『香具師口上集』(室町京之助との共著)は、現在も大道芸口上のテキストに使われています。坂野師がなくなってからは「ろくろ首の見世物」や「のぞきからくり」の復元、祝福芸「春駒」の復興(隅田川七福神めぐりとのコラボ)など、大道芸の可能性をいろいろと模索しています。

伊那を訪れた放浪芸人たち

【上演=1時間30分】

【演者】
浅草雑芸団

●
【実演】

「上伊那郡誌」に載っている芸人たち

春駒 / あほだら経 / 飴屋いろいろ(飴屋踊り、げんこつ飴、物産飴など)
曲取り(放下芸=太神楽曲芸) / 輪切り(金輪きり、金輪の曲) / 獅子舞

それ以外の大道芸

大黒舞(祝福芸) / 玉すだれ(放下芸) / がまの油売り(香具師の口上芸)

●
【井月映画祭・特別舞台公演】

11月23日(祭日) 12:45～14:45

【前売り券】

一般=1200円(当日1400円) ジュニア(中学生以下)=800円(当日1000円) 映画券使用

主催：一般社団法人 井上井月顕彰会

演目解説

上島敏昭「浅草雑芸団主宰」



春駒
〈祝福芸〉

年の初めに、当年の幸多かれと祈る芸能です。浅草雑芸団では2001年より毎年、「春駒」の巡遊を行っています。「春駒」は、神の乗り物である馬の霊力で一年を寿ぐ芸能です。

あほだら経
〈願人芸〉

願人坊主と呼ばれる半僧半俗の芸人の語り芸。願人坊主には鞍馬寺系と羽黒山系を名乗る系統がありましたが、偽物もずいぶんいたようです。あほだら経は、小さな木魚をリズムカルに叩いきながら戯言を語るものです。

日本の曲芸(手品を含む)を放下芸といます。いわゆるジャグリングです。毬や棒(パイという)の曲取り、傘回し、皿回しなどが一般的です。棒を使う芸をとくに「綾採り」といいます。

曲取り
〈放下芸〉



飴売り
〈香具師の口上芸〉

昔の風俗絵をみると、たくさんの飴屋さんがでてきます。甘いものが貴重であった時代には、子どもの嗜好品というだけでなく、ときには大人も口にする、現在で言えば「栄養ドリンク」のような、一種の薬でもあったようです。その中から、「げんこつ飴」「物産飴」の口上唄と、新潟県越路町の夏祭りに取り入れられた「飴屋おどり」などを演じる予定です。



金輪切り
〈放下芸〉

金輪の曲ともいいます。現在、手品ではチャイニーズリングなどと呼ばれます。代表的な日本の手品でしたが、手順などが不明となっていました。近年、青森県の民俗芸能「えんぶり」に取り入れられていることがわかり、復元されたものです。

獅子舞
〈祝福芸〉

獅子は想像上の動物で、邪気を払う霊獣とされています。日本の民俗芸能の三分の一は獅子舞ともいわれるほど、全国的にもさまざまな芸能です。大きな口で噛んでもらうと魔が去るといわれます。